

淡路島一市調査アンケート

調査報告

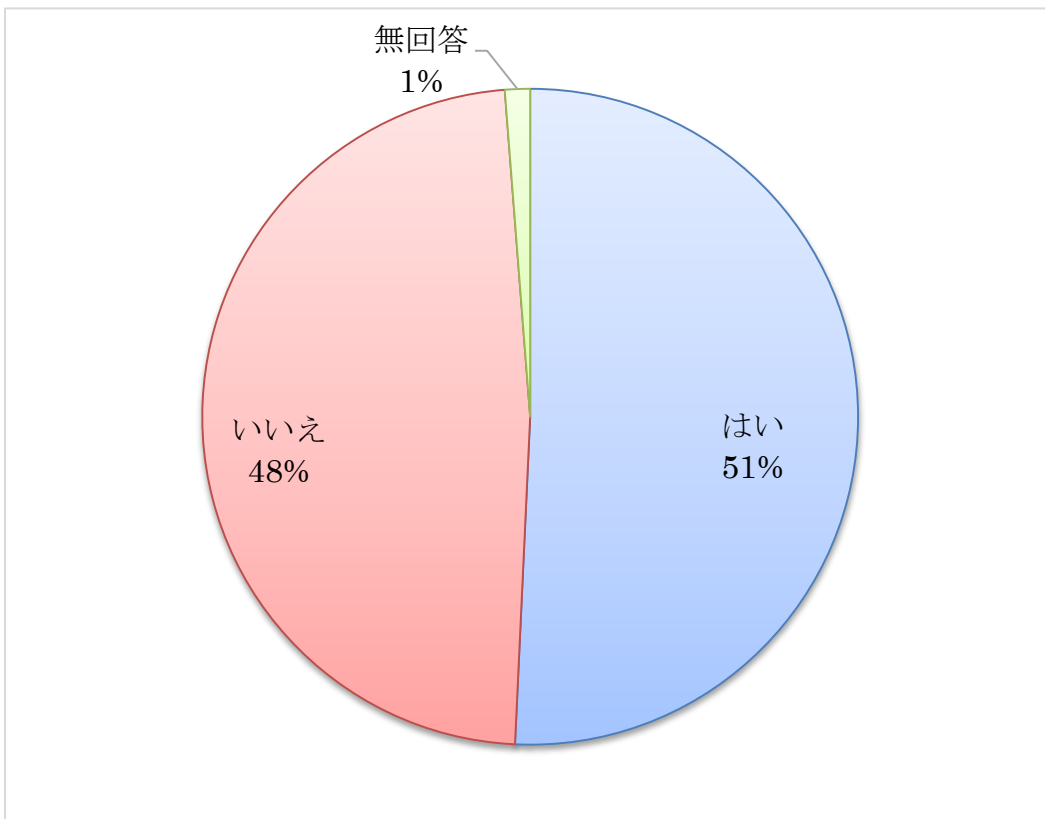
平成 30 年 10 月
一般社団法人淡路青年会議所

1.調査の概要

2005年に南あわじ市と淡路市、2006年に洲本市がそれぞれ合併し、現在の三市ができました。その背景には、国策の新合併特例法による社会情勢の変化と地域諸団体の活動がありました。私共一般社団法人淡路青年会議所は、設立当初より「淡路はひとつ」を基本理念に活動しており、「一市運動」もそのひとつでした。先の合併から10年が経過し、淡路島の状況が大きく変化する今だからこそ、島民の皆様に対し、「淡路島一市」に対するアンケート調査を実施し、今後の運営に役立てることを目的として実施いたしました。期間は6月24日から8月20日にかけて行い、アンケート用紙を2万部配布と合わせインターネットを通じてのWEBでの回答も受け付けました。調査にあたっては、10代以上を対象とし、三市に展開する店舗先での街頭アンケートや、企業、事業者、役所関係、教育関係など幅広くご協力いただきました。結果として、6213もの回答を得ることができました。以下が調査結果となります。

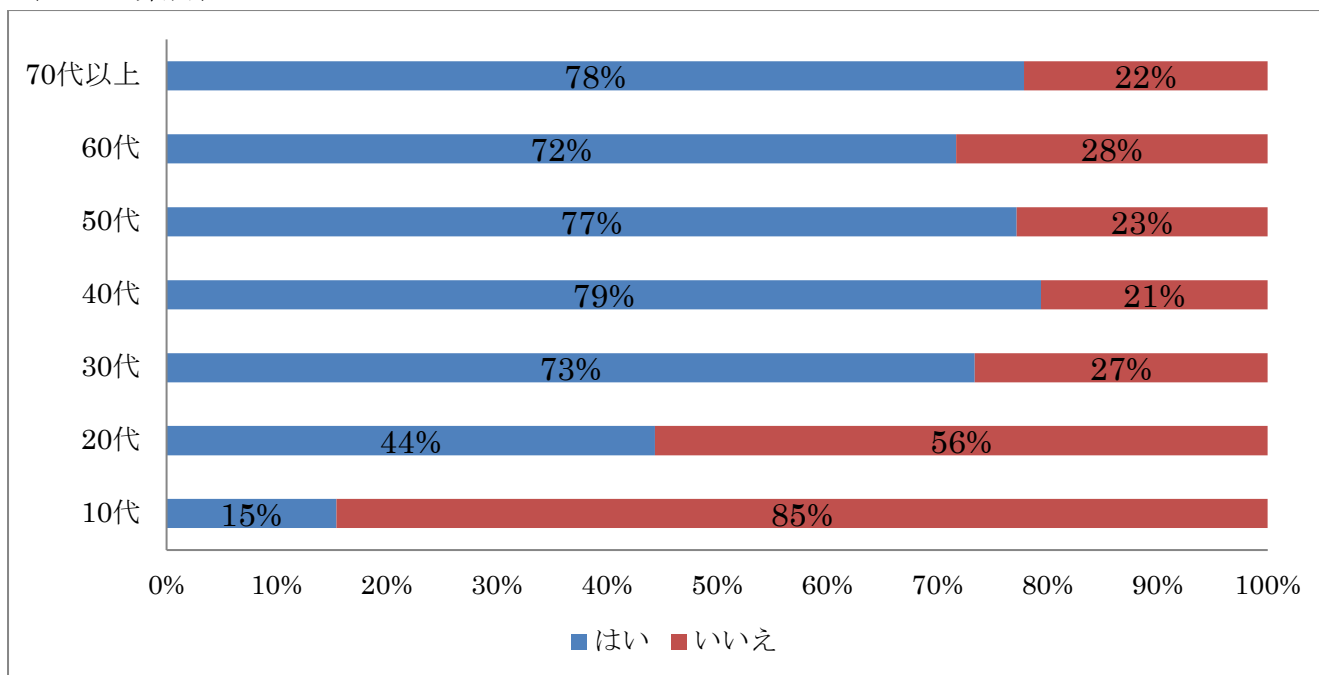
2.調査結果

Q淡路島を一つの市にしようという構想を聞いたことはありますか。



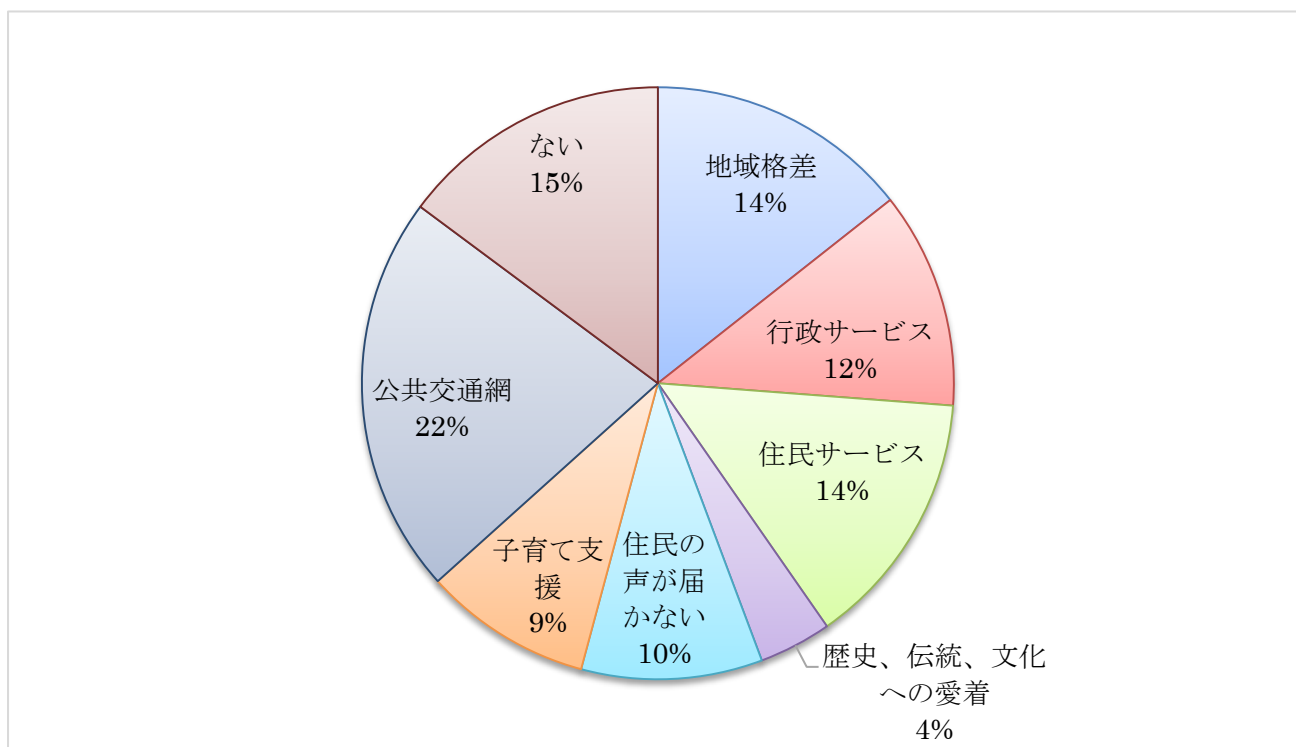
「はい」が51%と過半数を超える一方、「いいえ」も48%となっている。

(クロス集計)



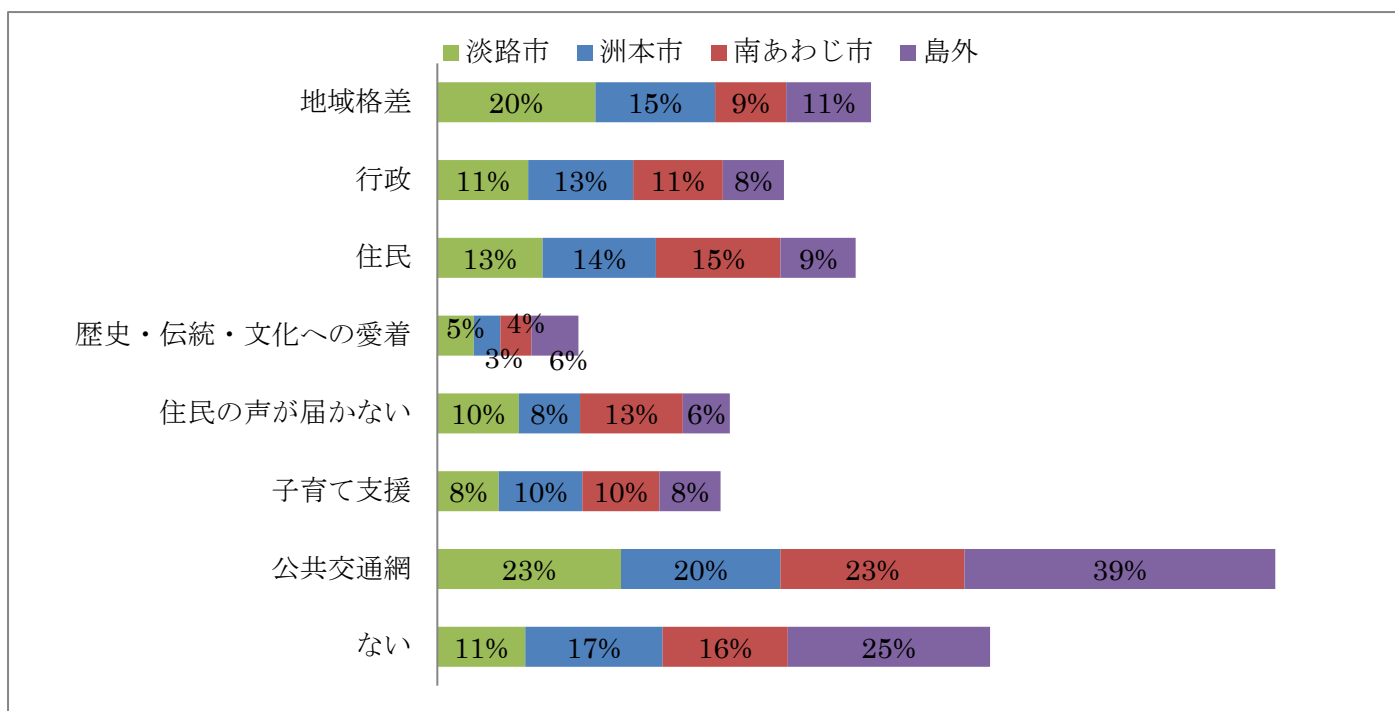
年代別にみると淡路島一市構想について「はい」は10代では15%、20代ではほぼ半数の44%に対し、30代以上の各世代では7割を超え、特に40代50代70代以上では8割近くが一市構想について「はい」と回答している。年代が上がるにつれて、特に20代と30代を境として「はい」の割合は格段に上がっている。

Q現状の行政サービスなどについてどのようなことが不満ですか。



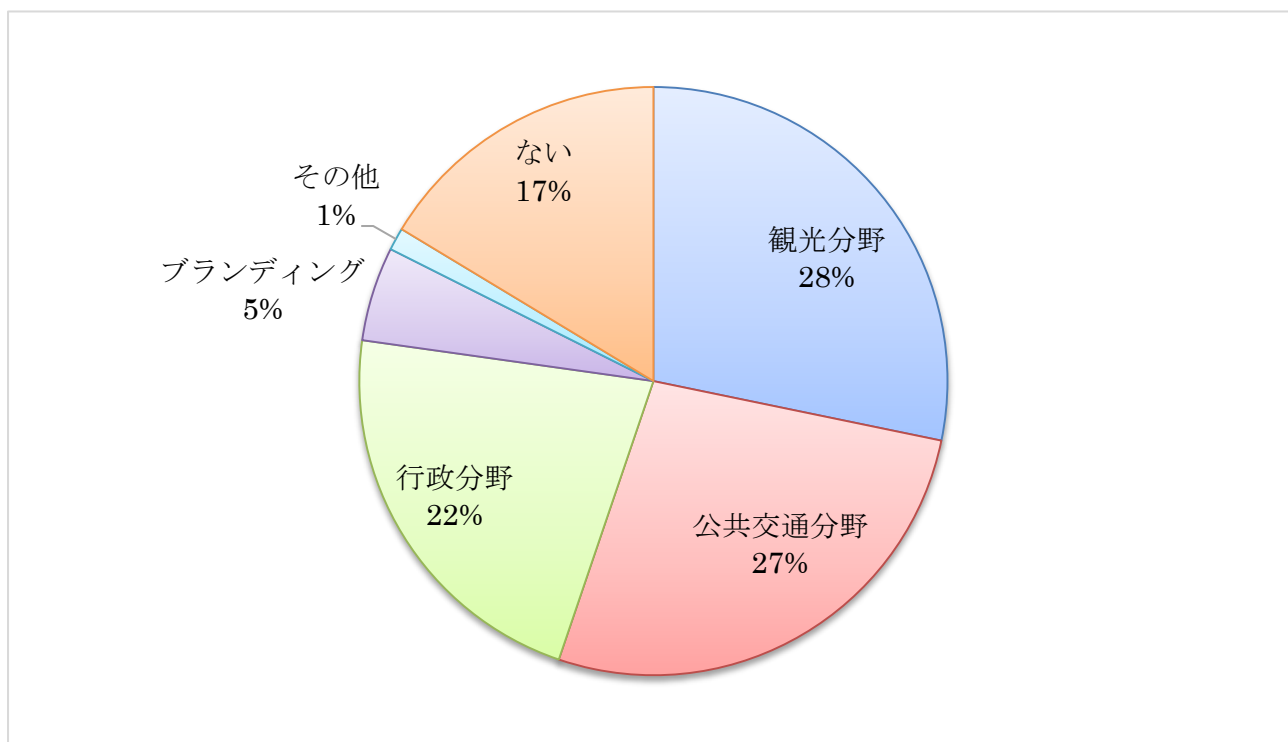
「公共交通網」への不満が22%で最も高く、「地域格差」と「住民サービス」が14%、「行政サービス」が12%と続いている。一方、「ない」と回答した割合も15%となっている。

(クロス集計)



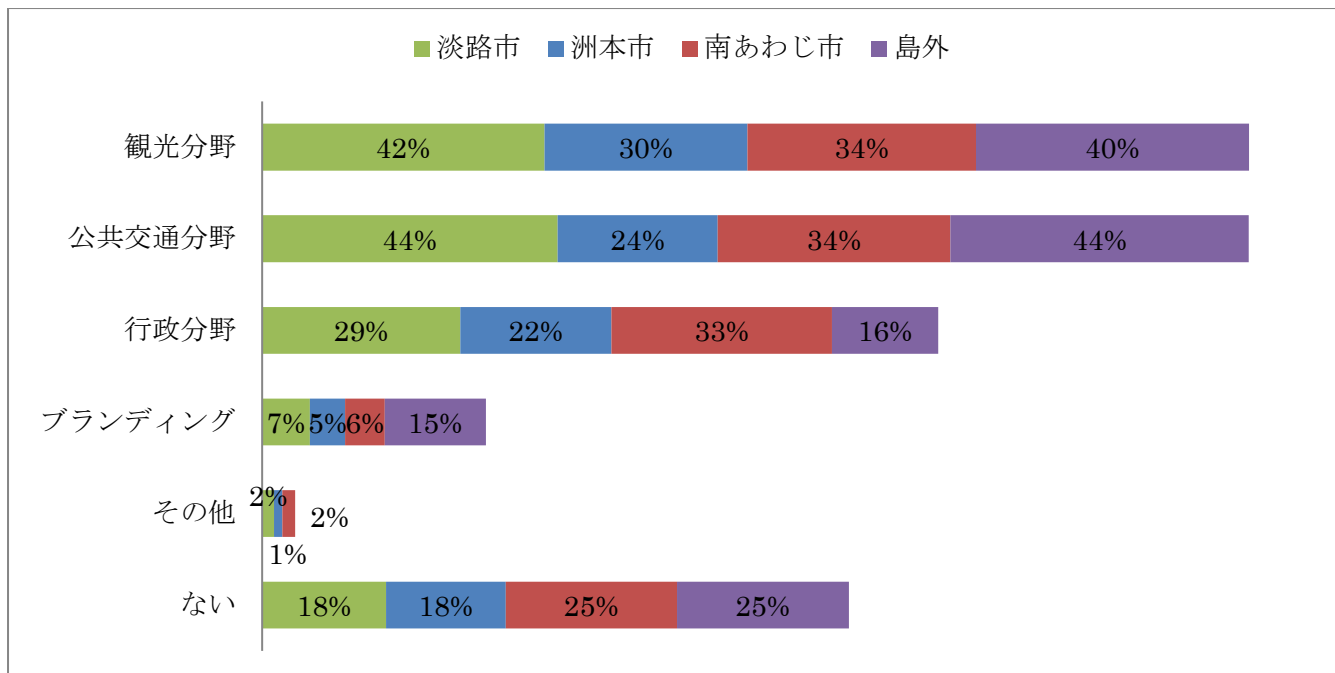
地域別みると、三市共通の不満として「公共交通網」が最も高く2割強となっている。「地域格差」については淡路市では20%となっているものの、南あわじでは9%にとどまっている。住民の声が届かないは南あわじ市では13%となっているが、洲本市では8%にとどまっている。一方、「ない」と答えた割合は洲本市が17%となっているが、淡路市では11%となっている。「行政サービス」「住民サービス」「子育て支援」などは三市ほぼ横ばいの結果となっている。

Q現状、淡路島で一つになるべきものは何だと思いますか。



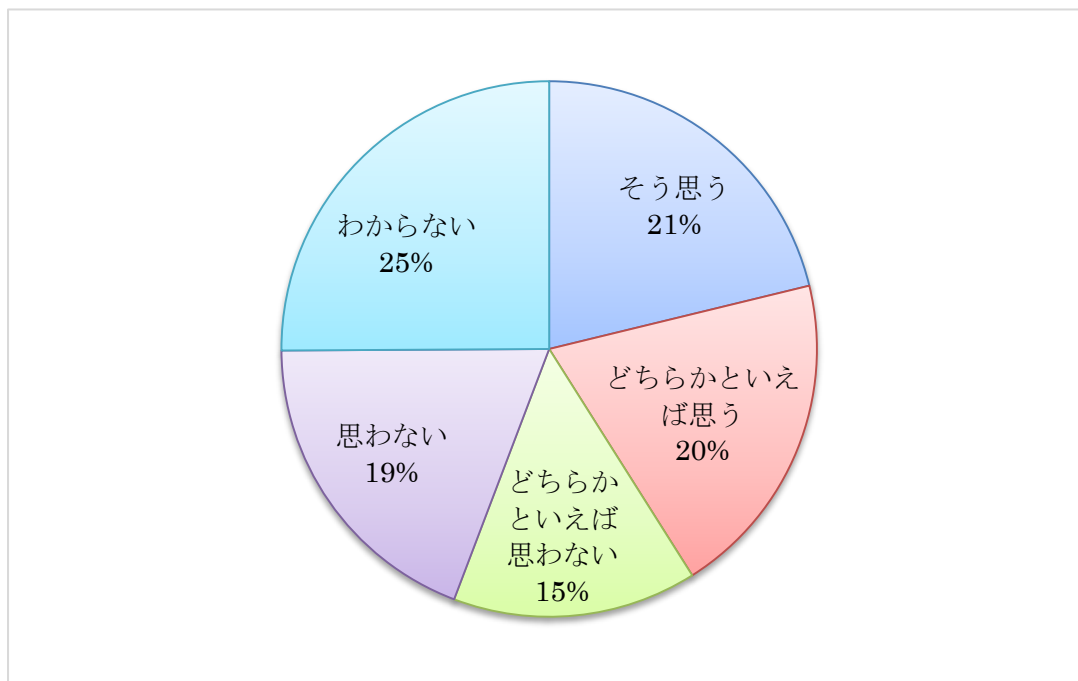
「観光分野」が最も多く28%となっており、続いて「公共交通分野」が27%でどちらも約3割となっている。「行政分野」も22%となっており、「ない」と回答した17%を上回る結果となっている。

(クロス集計)



「観光分野」では淡路市が 42%、南あわじ市が 34%と洲本市が 30%のほぼ横ばいに対し、「公共交通分野」では淡路市が 44%と南あわじ市は 34%の一方で洲本市は 24%にとどまっている。「行政分野」は南あわじ市が 33%で最も高く、淡路市 29%、洲本市 22%と続いている。

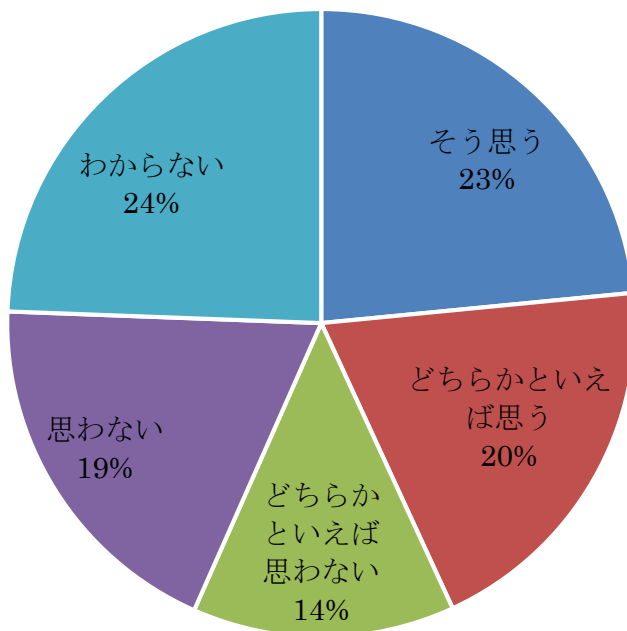
Q 将来を考えた際に、あなたは淡路島が一市になるべきと思いますか。



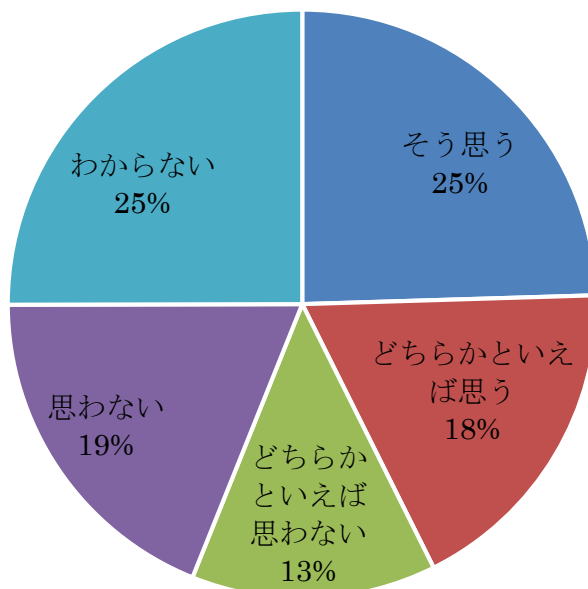
「そう思う」 21%と「どちらかといえばそう思う」 20%の合計は 41%で 4 割以上は一市になるべきと回答している。「どちらかといえば思わない」 15%、「思わない」 19%となっている。「わからない」は 25%とすべての選択肢で最も高い割合となっている。

(クロス集計)

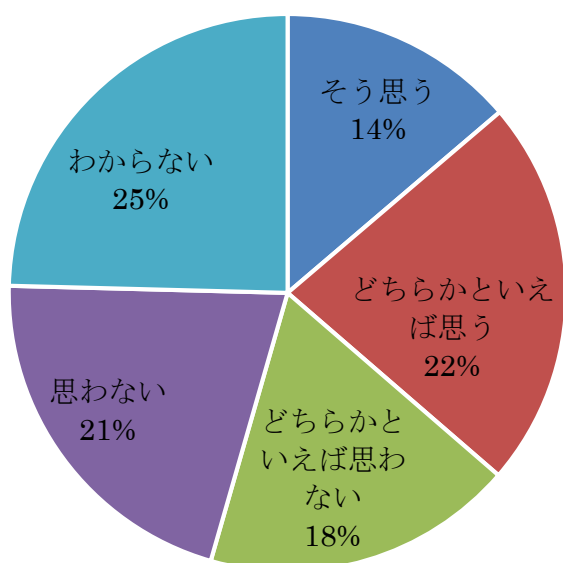
淡路市



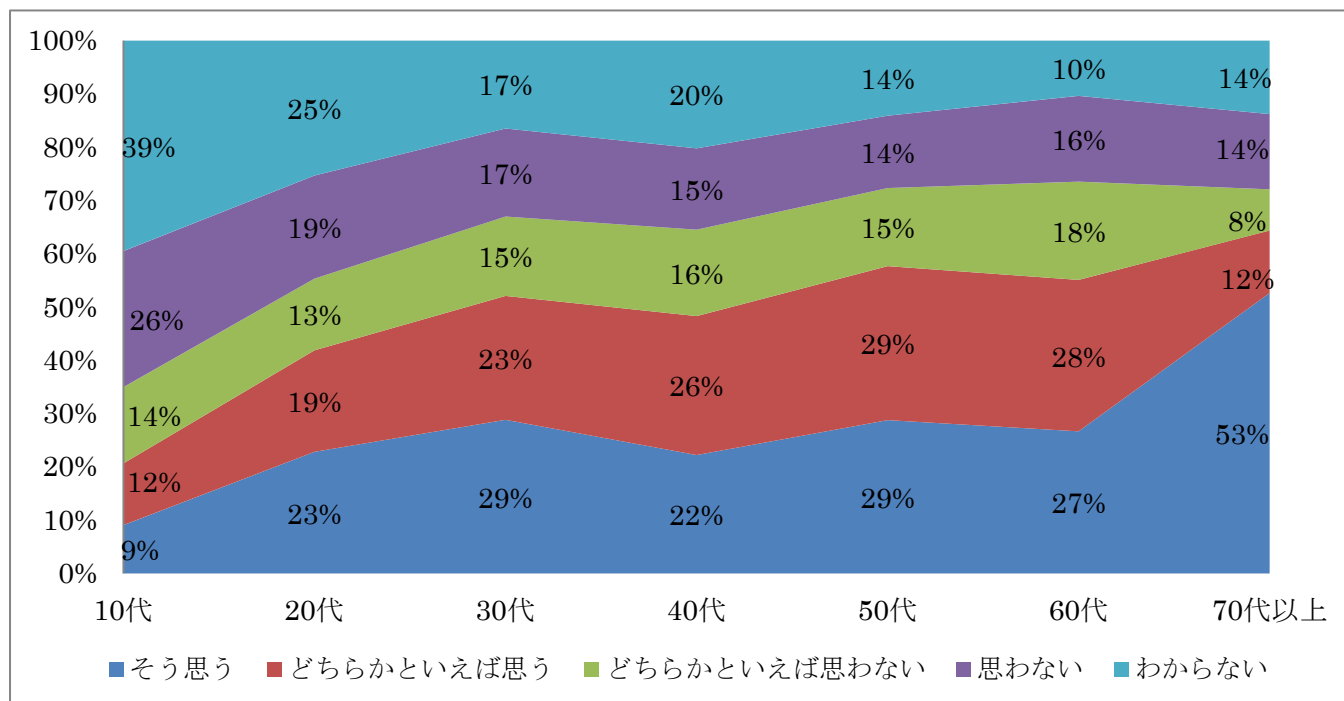
洲本市



南あわじ市

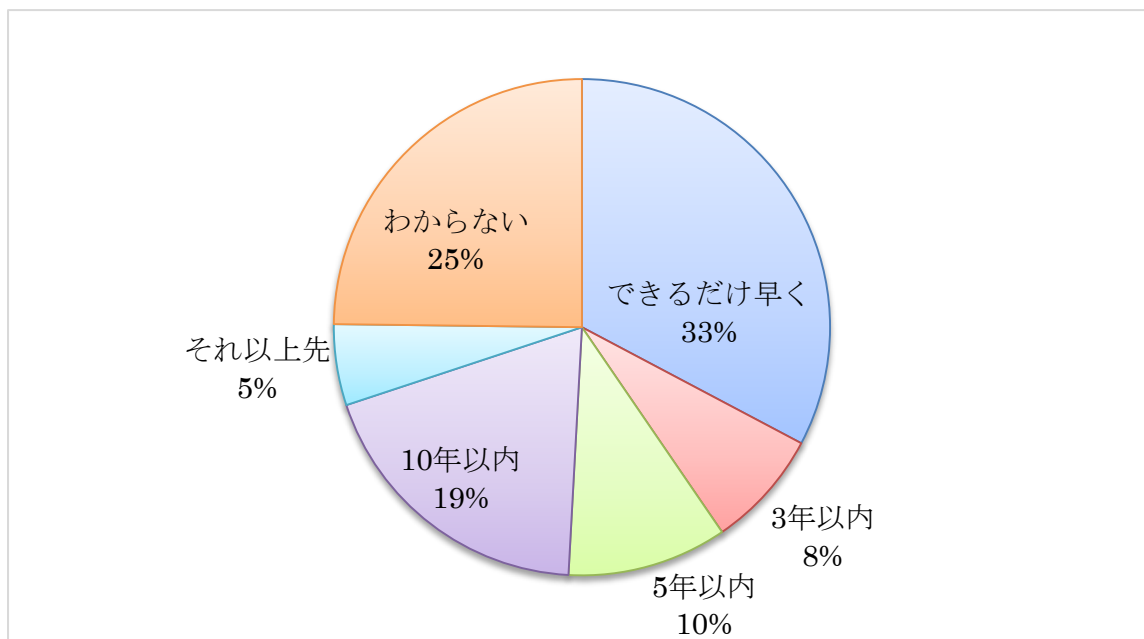


淡路市と洲本市では「思う」「どちらかといえば思う」の合計がともに 43%となっているのに対し南あわじ市では 36%にとどまっている。「どちらかといえば思わない」「思わない」の合計は、淡路市 33%洲本市 32%に対し南あわじ市では 39%となっている。「わからない」は約 4 分の 1 でほぼ横ばいとなっている。淡路市、洲本市では「思う」「どちらかといえば思う」が「どちらかといえば思わない」「思わない」を上回っているが、南あわじ市ではわずかに下回っている。



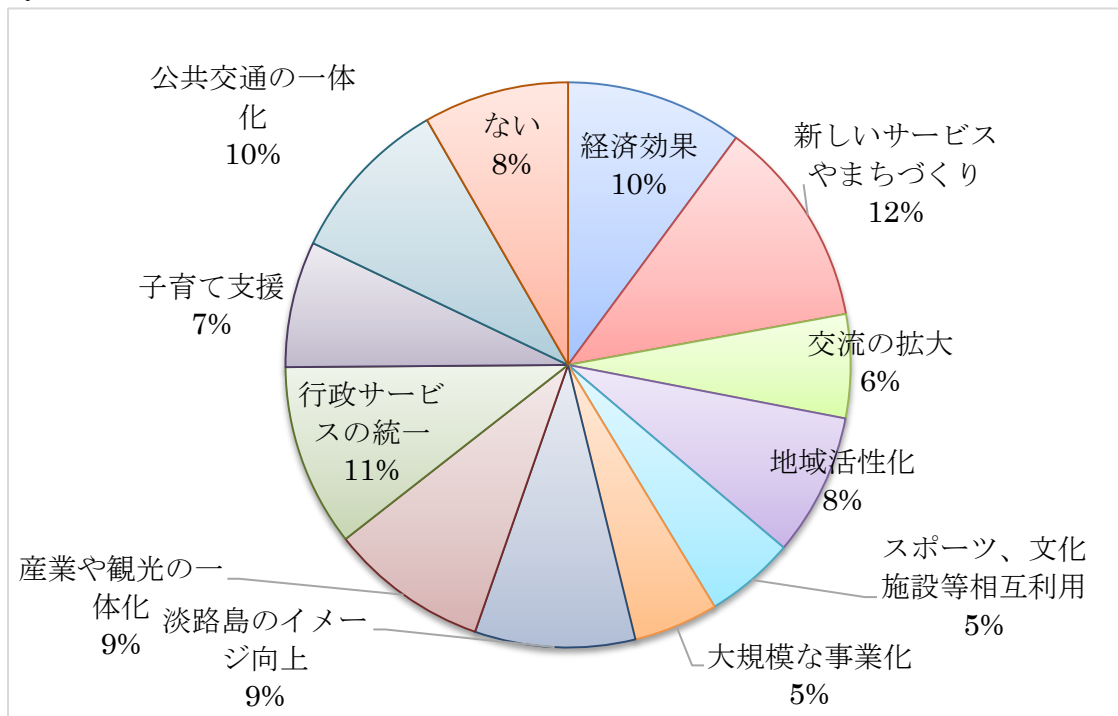
年代別に見てみると、「思う」が 70 代以上では半数を超え「どちらかといえば思う」と合計すると 65%となっている。一方で 10 代では 2 つの合計が 21%にとどまっている。30 代 50 代 60 代では過半数を超えており、40 代も約半数、20 代でも 43%となっており、「どちらかといえば思わない」「思わない」の合計を上回っている。「わからない」は 10 代で最も多く 39%で約 4 割、20 代で 25%となっている。そのほかの世代では 20%以下となっているおり、淡路島一市構想の認知度と同様の傾向がみられる。

Q いつ淡路島は一市になるべきと考えますか



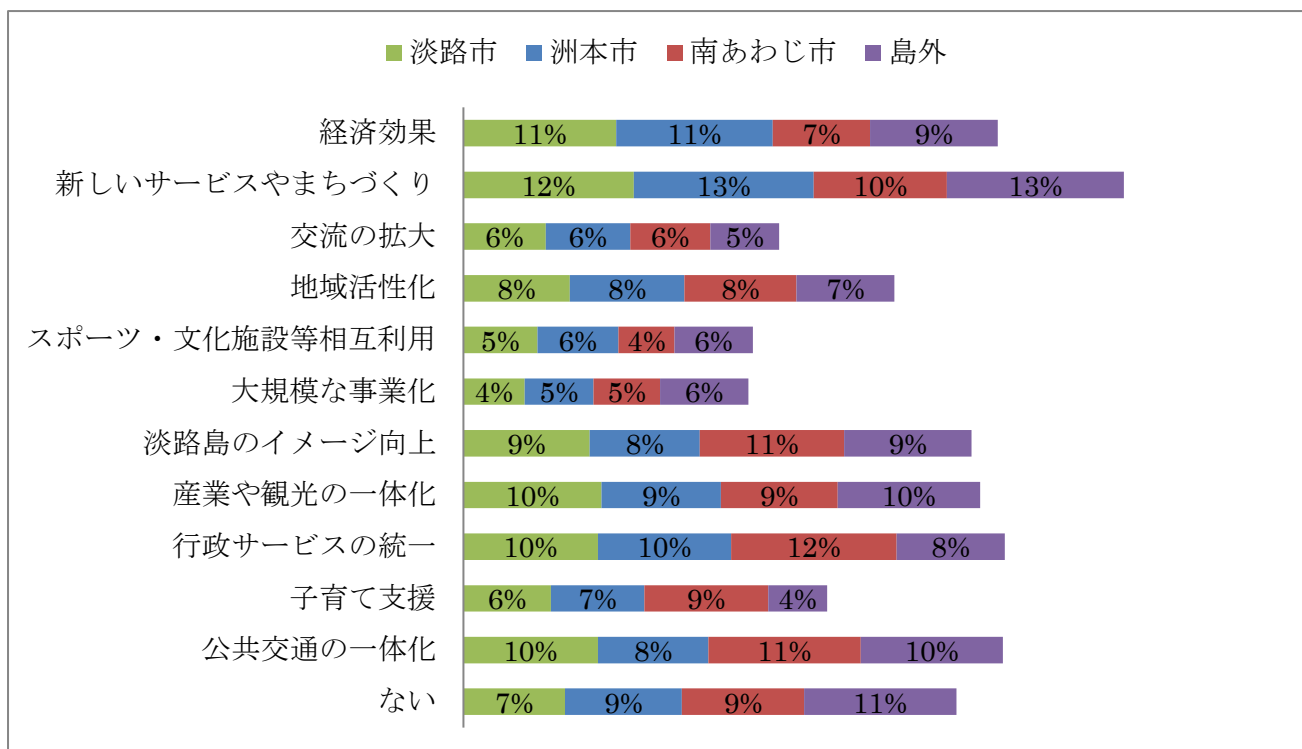
「できるだけ早く」と「3年以内」の合計は41%で、「5年以内」も含めると51%で過半数を超える結果となっている。

Q5.淡路島が一市になった場合どのようなことが期待できますか（複数回答可）



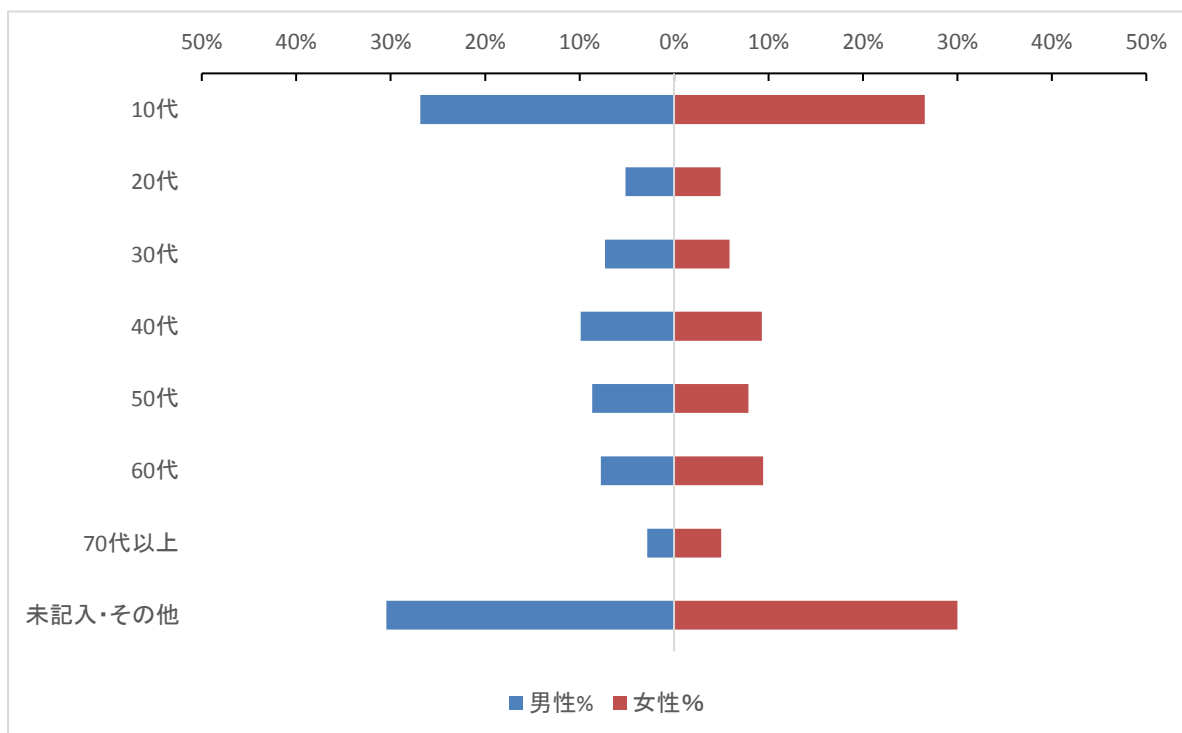
「新しいサービスやまちづくり」が12%で最も高く、「行政サービスの統一」が11%、「公共交通の一体化」が10%で続いている。

(クロス集計)

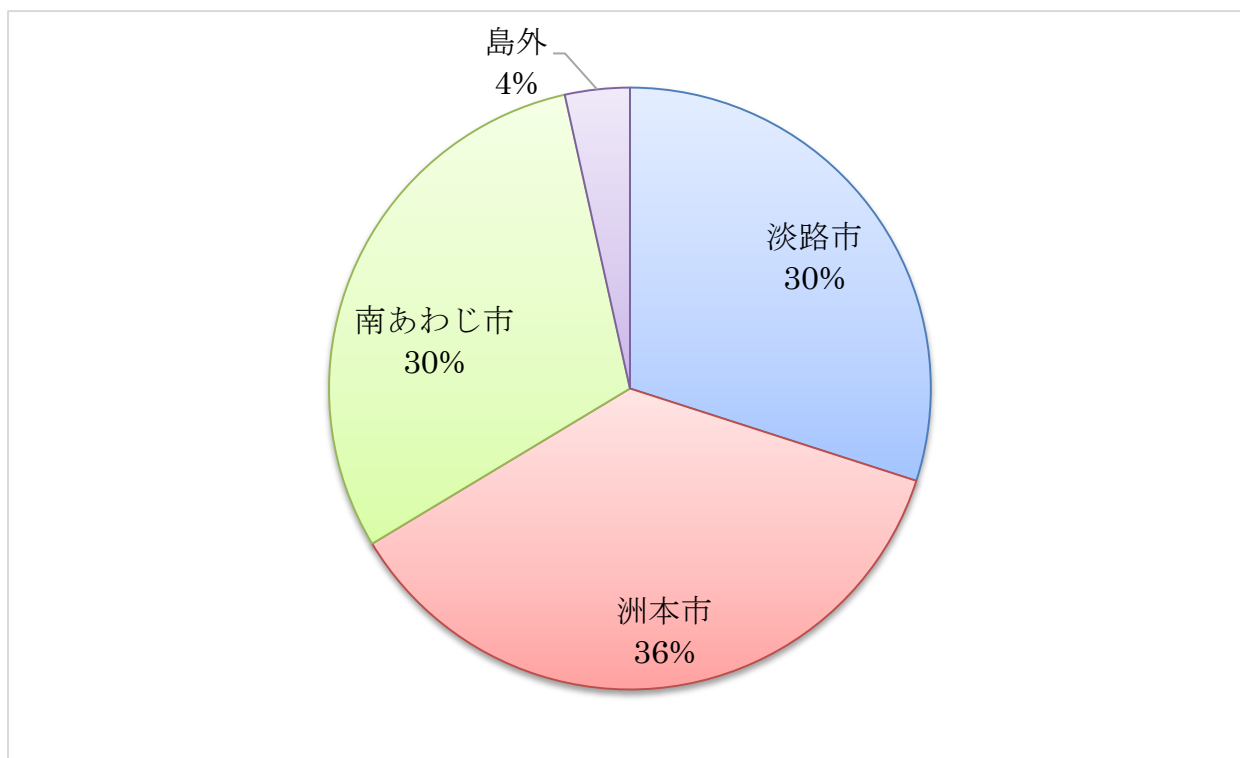


地域別にみると淡路市、洲本市では「新しいサービスやまちづくり」がそれぞれ12%と13%で最も高かったのに対し、南あわじ市では「行政サービスの統一」が12%で最も高くなっている。また経済効果については淡路市と洲本市がともに11%に対し、南あわじ市が7%にとどまっている。

男女年代別



お住まい



【自由記述】(主なもの)

○淡路島一市になるべきだと思う

- ・住民の合意形成を進めるべき。
- ・過剰な施設の廃止統合による、スリムな行政運営ができる。
- ・行政サービスの効率化につながる。
- ・JC からメリットを提案してほしい。
- ・過剰なスポーツ施設の役割分担をしてはどうか。淡路市は野球、洲本市は陸上、南あわじ市は水泳など、文化施設についても同様のことが言えるのではないかな。
- ・住民の意識改革が必要ではないかな。

○淡路島一市になるべきだと思わない

- ・一元化しても地域エゴが残る。合併ありきでなく、合併の問題提起とメリット比較、デメリットへの対応も提言するほうがより具体的かつ実のある議論となる。
- ・三市になって何が良くなったかが実感できない。検証すべき。
- ・大きくなるとサービスの低下するのではないかな。
- ・役所が遠くなり、手続きがしづらくなるのではないかな。
- ・地域格差が拡大するのではないかな。

○わからない

- ・メリットとデメリットを提示してほしい。
- ・三市で地域格差、子育て支援の差があるのはおかしい。一市にして経費を削減し、サービスの平等化や、他のサービスへ税金をつかってほしい。
- ・バスの運賃が高い。運賃の値下げや、便数を増やしてほしい。
- ・交通機関を充実してほしい。
- ・遊べる施設を作してほしい。
- ・無駄を省くことも大切だが、平日の行政サービスの時間延長や土日営業など手厚くできるところも考えてほしい。

注意事項

※回答は各質問の回答者数を基盤とした百分率で示してある。

※百分率は小数点以下を四捨五入して算出した。このため百分率の合計が100%にならないことがある。

※1つの質問に2つ以上答えられる複数回答可能の場合は、回答比率の合計が100%を超える場合がある。